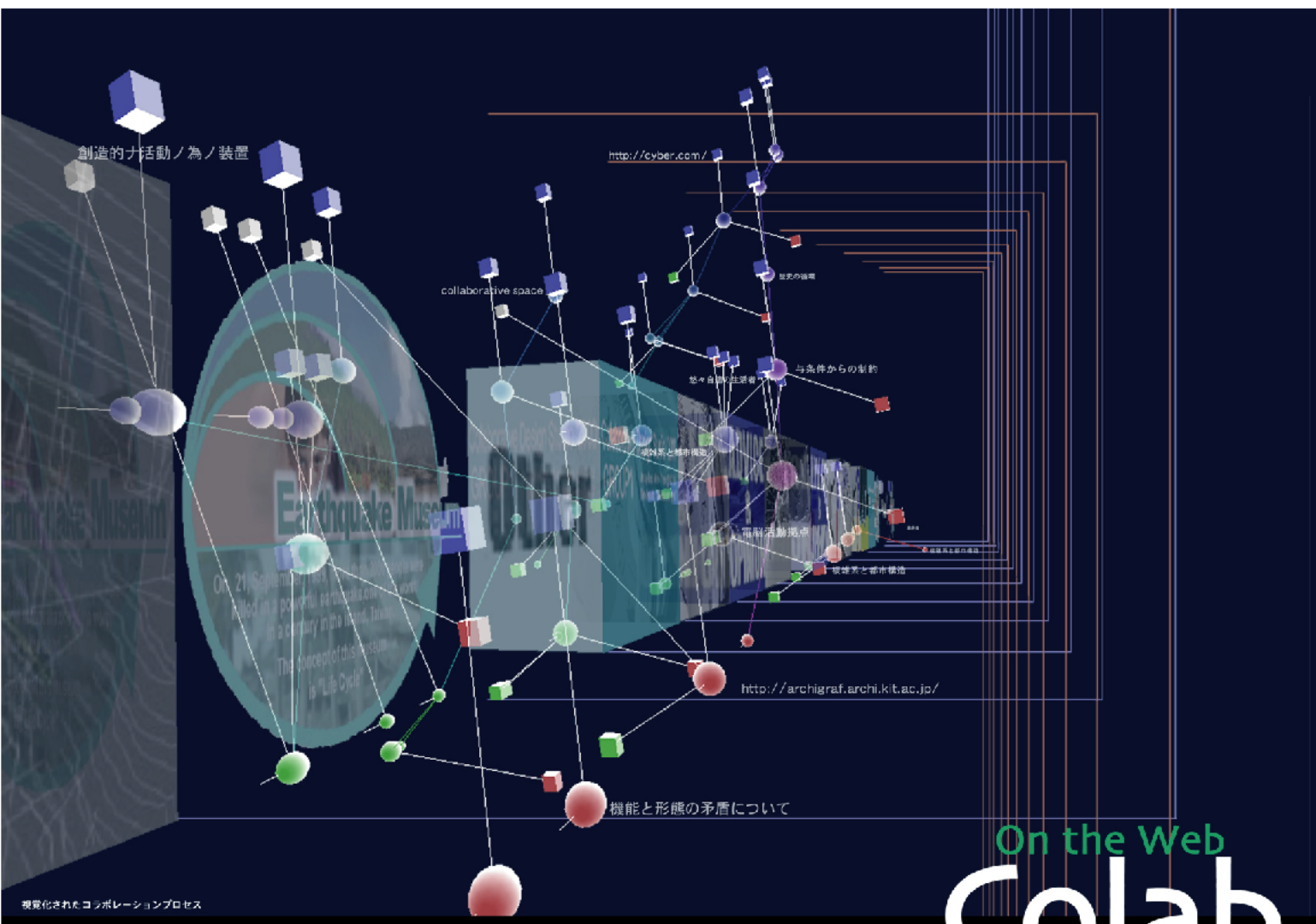


Poster Panel

KITセミナー出展

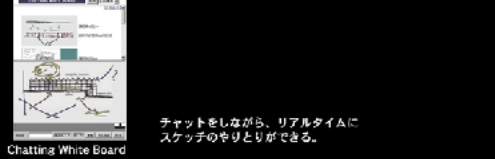


遠隔地間における協同設計支援環境

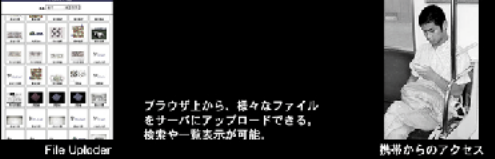
1996年以來、われわれは海外・国内の大学とインターネットを利用した遠隔地間の協同設計の実験を毎年行ってきました。遠隔地間の仮想空間の共有によって、場所や時間差にかかわらず設計の進め方ができます。設計現場におけるワークスタイルとマネジメントに変革を促すことは避けられないでしょう。インターネットの普及によって可能になるデザインの新しいワークスタイルです。



くうかん
デスクトップTV会議システムを利用することで、遠くはなれた人々が、顔をみながら話し合いをすることができます。検証実験では、I-Visitで3点間の映像・音声の通信をしながら、Net-Meetingのアプリケーション共有機能を使ってプレゼンファイル进行操作しながら講習会を行いました。



じかん
既存の環境においても、メモなどを用いて時間差のある情報伝達をします。われわれは、インターネット上で非同期的なデザインコミュニケーションを行うための環境を構築してきました。テキストだけではなく、画像、CAD、DTPなどのファイルをウェブ上の仮想的な壁にピンナップできます。



プロセス
創造的なコラボレーションのためには、プロセスの把握・管理が重要となります。われわれは、プロセスを記録し有効に活用することを念頭においています。例えば、プロセスをリアルタイムに視覚化することでチームの状況を把握しながらデザインを展開することが出来ます。

いつでも、どこでも、だれでも
研究当初から「いつでも、どこでも、だれでも」を強く意識し、ブラウザ・ベースの支援環境を構築してきました。インターネットに接続したPCさえあれば、特別なソフトがなくてもチームに参加できます。2000年からは携帯電話をシステムに組み込みアクティブで迅速なコラボレーションが行えるようになりました。